

あきる野市版レッドリスト（^は爬虫類）

H31. 3. 15

| 1

和名	科名	学名
絶滅危惧ⅠA類（CR）		
ニホンイシガメ	イシガメ科	<i>Mauremys japonica</i>
ニホンスッポン	スッポン科	<i>Pelodiscus sinensis</i>
絶滅危惧Ⅱ類（VU）		
シロマダラ	ナミヘビ科	<i>Dinodon orientale</i>
ヤマカガシ	ナミヘビ科	<i>Rhabdophis tigrinus</i>
ニホンマムシ	クサリヘビ科	<i>Gloydius blomhoffii</i>
準絶滅危惧（NT）		
ヒガシニホントカゲ	トカゲ科	<i>Plestiodon finitimus</i>
ニホンカナヘビ	カナヘビ科	<i>Takydromus tachydromoides</i>
タカチホヘビ	ナミヘビ科	<i>Achalinus spinalis</i>
ジムグリ	ナミヘビ科	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>
アオダイショウ	ナミヘビ科	<i>Elaphe climacophora</i>
シマヘビ	ナミヘビ科	<i>Elaphe quadrivirgata</i>
ヒバカリ	ナミヘビ科	<i>Hebius vibakari vibakari</i>
注目種（*）		
ニホンヤモリ	ヤモリ科	<i>Gekko japonicus</i>

選定方法

1 検討の体制

市と市民等との協働組織であり、あきる野市の生物多様性の保全について検討を行う「あきる野市生きものの会議」による議論を経て、市長が選定した。

| 2

2 専門部会の設置

上記の会議の下部組織として、「両生爬虫類部会」を設置し、種の選定及びランク付けの案を作成した。両生爬虫類部会の委員構成は次のとおりである。

座長 草野 保 トウキョウサンショウウオ研究会
委員 浦野守雄 あきる野市自然環境調査部会
小澤祥司 トウキョウサンショウウオ研究会
栗原達夫 あきる野市自然環境調査部会
パブロ・アパリシオ・フェルナンデス 森林レンジャーあきる野

3 カテゴリー区分と基本概念

名称	表示	基本概念
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来に、野生での絶滅のおそれがとても高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類	VU	絶滅のおそれが高まることを避けられないと考えられるもの。
準絶滅危惧	NT	今の時点での絶滅のおそれは小さいものの、個体数や生息する場所が急激に減ったときなどには、絶滅のおそれが一段と高まると考えられるもの。
注目種	*	今の時点で絶滅のおそれは低いものの、生息環境の減少や外来種による被害、生息環境の特殊性などを考慮して、注目すべきもの。

4 種の名称等

和名学名等の名称は、「日本産爬虫両生類標準和名リスト（2019年1月25日版）」に準じて記載した。

<写真の提供について>

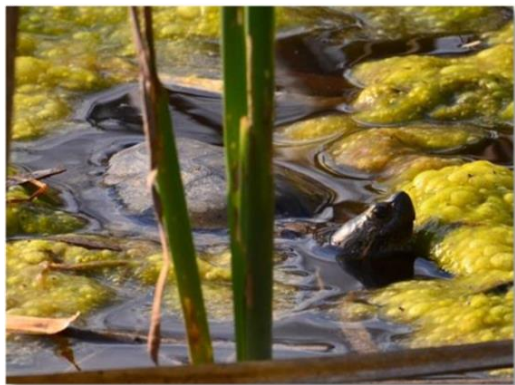
この資料に掲載した写真は、次のとおりご提供いただいたものです。転載は禁止します。

- ・シロマダラ、ヤマカガシ、ニホンマムシ、タカチホヘビ、ジムグリ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ
…「あきる野市自然環境調査報告書（平成21年度～23年度）」より転載
- ・ニホンイシガメ、ニホンスッポン（撮影地：あきる野市）、ヒガシニホントカゲ（撮影地：あきる野市）、
ニホンヤモリ（撮影地：あきる野市）…パブロ・アパリシオ・フェルナンデス氏
- ・ニホンカナヘビ…小澤祥司氏

絶滅危惧ⅠA類（CR） 2種

絶滅のおそれを高めている原因が、改善せず今のまま続いたとすると、ごく近いうちに、野生では絶滅するおそれがとても高いもの。

| 3



ニホンイシガメ



ニホンスッポン

絶滅危惧Ⅱ類（VU） 3種

絶滅のおそれを高めている原因が、改善せず今のまま続いたとすると、近いうちに、さらに絶滅のおそれが高まることを避けられないと考えられるもの。

| 4



シロマダラ



ヤマカガシ



ニホンマムシ

準絶滅危惧（NT） 7種

今の時点での絶滅のおそれは小さいものの、個体数や生息する場所が急激に減ったときなどには、絶滅のおそれが一段と高まると考えられるもの。

| 5



ヒガシニホントカゲ



ニホンカナヘビ



タカチホヘビ



ジムグリ



アオダイショウ



シマヘビ



ヒバカリ

注目種（＊） 1種

今の時点で絶滅のおそれは低いものの、生息環境の減少や外来種による被害、生息環境の特殊性などを考慮して、注目すべきもの。

17



ニホンヤモリ